



「健やか親子21（第2次）」と母子保健情報の利活用についての研修

健やか親子21

目的：母子保健計画や母子保健情報の利活用の目的や考え方、PDCAサイクルの進め方を理解することで、今後の母子保健事業に活かすことを目指す。

対象：都道府県、市区町村の母子保健行政担当者

※本資料は当日参加ができなかった方にも講義内容が理解しやすいように、実際の講義と当日配布した資料を元に事務局において作成した資料となります。詳しい内容は、特設HP内の終了報告に掲載の資料をご覧ください。

1. 母子保健事業と情報の利活用

例えば、5歳児健診の時に気になる子どもは335人中24人。
その子たちが小学校1年生の時に気になる子どもは335人中15人。

→9人は介入の効果があったと言えるか？

		小学校1年2学期		
		気になる	通過	合計
5歳児健診	気になる			24
	通過			311
	合計	15	320	335

赤いセルを埋めるためには個別のデータが必要

★乳幼児健診データの利活用の意義

- データの利活用（なぜ個別データなのか）
 - ・地域把握：集計表からある程度可能
 - ・要因分析：個別データの分析が必要
- 市区町村の役割
 - ・精度管理、事業評価→縦断的なデータの分析
- 都道府県の分析
 - ・地域格差の要因分析と改善方法の分析（集団寄与危険など）
 - ・全県データにより、属性別等の詳細分析が出来る
- 国の役割
 - ・都道府県格差の分析、要因分析
 - ・オールジャパンとしての分析

★乳幼児健診データを何に使うか

- 地域診断・要因分析など
 - ・個別指導に使わなければ、上記の分析はいずれも個人情報不要（分析は個人情報を外して行う）
 - ・要因分析は集計ではなく個別情報でないとできない
 - ・継時的情報を個人で突合するために個別番号が必要。
 - ・既存のシステムの活用、個人情報ははずしたデータのコンバートなど
- 厚労省への母子保健事業報告
 - ・問診票の検討：標準化→個別指導に必要な項目を問診用へ
 - ・集計方法の検討：テキストデータ化

★

- 集団データから個別データの解析へ
 - ・集計データの分析の限界
他の要因との関連を見ることが難しい
- 横断データから縦断データの構築へ
 - ・横断データの限界
横断データは時間の関係がわからない
 - ・個人の時間的経過（軌跡）がわかる
 - ・要因の解明
 - ・事業評価
- 自らも分析ができると保健活動がもっと楽しくなる

★データヘルス時代を迎えるために

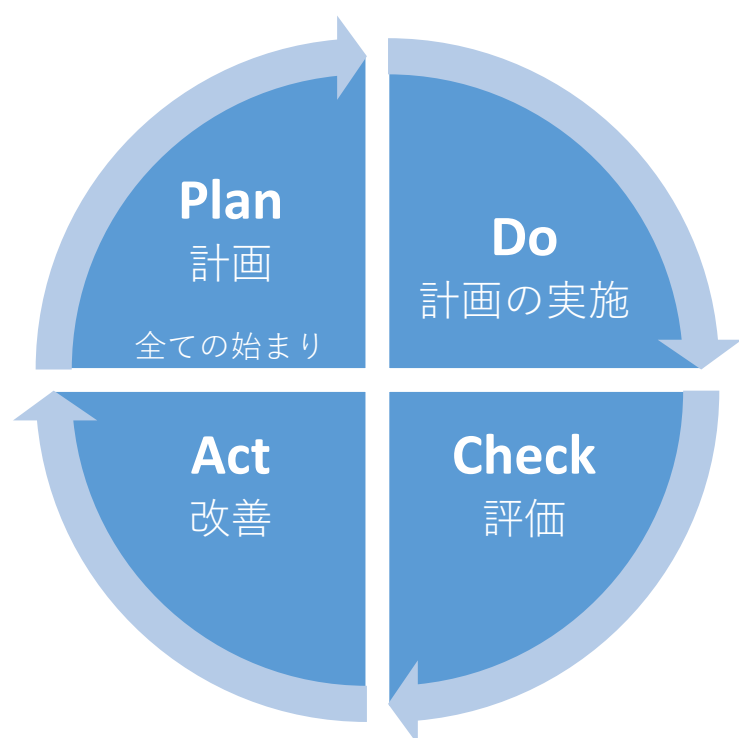
- 健康支援：個別支援と予防活動は両輪
優先順位 個別支援（下流） > 予防（上流）
方略 個別支援（下流） < 予防（上流）
- データヘルスは基盤方略
データスキルは基礎技術
- 統計量の解釈が最も重要
実人数、絶対危険、相対危険

2. 「母子保健情報の利活用、その進め方」

★PDCAサイクルについて

○PDCAサイクルを回す意義

科学的な情報に基づき、効率的に改善を行って、成果を上げる



★評価の観点

○アウトカム（成果・結果）評価
事業成果の目標に関する指標

○ストラクチャー（構造）評価
体制の評価

○プロセス（過程）評価
事業を効果的・効率的に実施するための事業企画立案、実施過程等に関する指標

○アウトプット（事業実施量）評価
事業成果の目標を達成するために必要となる事業の実施量に関する指標

★量的な分析と質的な分析

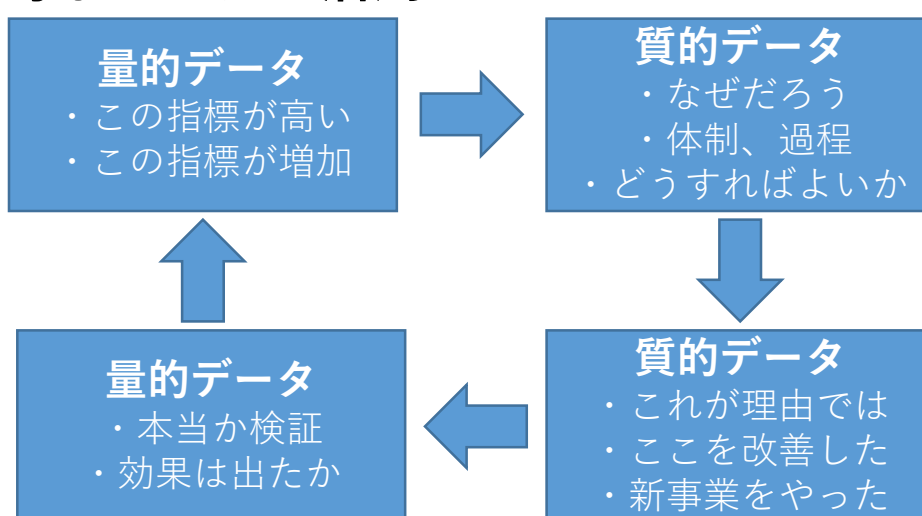
○量的な分析が適するもの

- ・問題の大きさの比較
- ・アウトカム、アウトプット評価

○質的な分析が適するもの

- ・改善可能性の評価、改善方法の検討
- ・ストラクチャー、プロセスの評価

★質的なデータの活用



★評価のための分析方法

○地域評価（地域診断） Assessment

- ・地域間比較 自分の自治体と全県・全国の比較等
- ・年次比較 良くなっているか、悪くなっているか
- ・人の属性比較 児や親の年齢別の比較、世帯構成間比較など
- ・課題間の比較 どの疾病、どの理由が大きいかなど

○事業評価 Evaluation

- ・事業実施前後の比較、年次による比較
- ・事業参加群と非参加群の比較など

★もう一つの地域診断→市域資源の把握

○地域評価には両方必要

- ・地域のニーズ(needs)：課題や悪い点の把握
- ・地域のアセット(asset)：地域の資源や良い点の把握
- ・地域資源とは...

個人：住民や関係機関のキーパーソン

グループ：地区組織、NPOなど

機関：関係機関、企業、大学など

場所：施設、公園、自然環境など

文化：お祭り、絆、伝統食など

○なぜ、地域資源の把握が重要か

- ・他地域での成功例を闇雲に真似してもうまくいかないことが多い
- その地域には、成功するための地域資源がある

・自分の地域には別の地域資源がある
その地域資源が生きる取り組みが重要

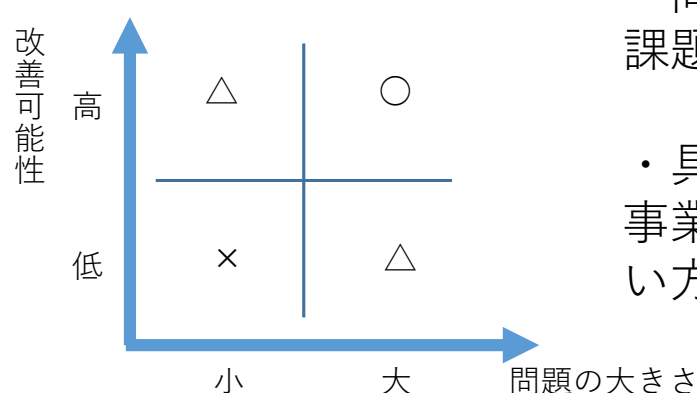
★課題と優先順位

○日々感じている地域の課題は何か

→担当が集まって、改めて考えてみる

- ・情報分析から見える重点課題は？
- ・どのような取り組みが出来るのか

○優先順位の判断



・問題が大きく、打つ手がある課題は最優先

・具体的な対策が困難な課題は、事業として展開できないが、良い方法について検討を継続する

3. 「母子保健情報の利活用の具体的な手法」

★母子保健情報の利活用の流れ

1. 収集データの集計→2. 集計結果の見える化→3. クロス集計（分析）→4. 結果の解釈と検討

★集計ソフトの活用

○乳幼児健診情報システムとは…

市区町村の乳幼児健診で得られたデータ等を市区町村や保健所が日頃の母子保健活動に利活用できるように支援するためのツール。

主にデータ管理・集計・報告を目的としてプログラムされたエクセルファイルで出来ている。

○利用することのメリット…

- ①地域評価・施策への活用・重点課題抽出など根拠資料の提供
- ②健診データを活用した健康支援など（母子保健データヘルス）
- ③市町村と県とのデータ共有が容易に行える（作業効率Up）
- ④エクセルを使用していることで、独自の追加分析やシステムのカスタマイズが容易に行える（汎用性が高い）
- ⑤大規模なシステムに比べ、開発・運用費用が大幅に低い（コスト減）

○集計し、比較することで出来る事

- ・地域の傾向を把握
- ・課題の抽出
- ・現状の事業の振り返り
- ・全国や他市との比較から自市の位置を知る（弱み・強み）
- ・評価に活用する・・・など

★集計値の中身を知る＝自分の自治体の特徴を知る

○色々な集計値の関連を見るためには、クロス集計をする必要がある

★指標の比較方法

1. 疫学の要因分析において重要な指標
 - ・相対危険 2つの集団間の疾病頻度の比をいう
 - ・オッズ比 ・罹患率比 等
2. 公衆衛生対策において重要な指標
 - ・寄与危険 2つの疾病頻度の差を示すものをいう。

○ポイントは、人口（集団）寄与危険割合

人口（集団）寄与危険割合が大きい方が、集団全体の疾病をより多く予防する因子。これは集団を対象とする視点として重要

エクセルでクロス集計をするには、**ピボットテーブル**という機能を使うと便利！
※ピボットテーブルの練習に使えるエクセルデータをご希望の方は、日本家族計画協会研修担当までご連絡ください。